

今年度の調査の方向性等について

1 粉じん濃度測定

- (1) 質量濃度測定による方法か、光散乱方式による測定機器と質量濃度変換係数（K 値）を用いた相対濃度指示方法かのいずれかでよいか。
- (2) K 値については、併行測定により算定する方法に加え、文献の測定結果から統計的に決定した標準 K 値（LD-5R）を使用することを認め、その妥当性を昨年度及び今年度の粉じん測定結果で検証するということがよいか（資料 3-1 参照）。また、新たに LD-6N2 の K 値を定めることがよいか。
- (3) 現地測定は、分粒装置（吸入域）付きの 20 L/min のサンプラーと LD-5R 及び LD-6N2 の併行測定でよいか。（測定器の型式は要検討。）

2 遊離けい酸含有率の測定方法

- (1) 遊離けい酸含有率の測定は、作業環境測定基準に準じたる紙捕集方法及び分析方法に加え、簡易な方法も可能としてよいか。
- (2) 簡易な方法としては、過去の文献に基づき岩石の分類別に 3 段階程度の標準含有率を定め、事前のボーリング調査等の結果と照らし合わせて遊離けい酸含有率を推定する方法とし、その妥当性を本年度の調査結果で検証することがよいか（資料 3-2 参照）。
- (3) 今年度の調査は、以下でよいか。
 - ア 可能な範囲で、火成岩（酸性岩、中性岩、塩基性岩）、堆積岩、変成岩など、異なる地質のトンネルの測定を行う。
 - イ ろ紙捕集法による測定は作業別にフィルターを交換しつつ 1 サイクル連続でサンプリングする。遊離けい酸の測定下限値の関係から、複数のサイクルを連続で測定することも検討する。相対濃度計による測定は、1 サイクル連続測定とする。

3 現地調査場所の選定基準

- (1) 湧水の問題が少ない（なければベスト）こと。
- (2) 断面が比較的大きいこと。
- (3) 発破よりは機械掘りであること。

4 今後のスケジュール（案）

- (1) 7 月～9 月：現地測定及び結果とりまとめ
- (2) 10 月～11 月頃：検討会開催（骨子案提示）

- (3) 12月～1月頃：検討会開催（報告書案の審議）
- (4) 2月～3月頃：検討会予備日（報告書案の審議）
- (5) 報告書公表（年度内）